

# 2019年度公開講座《9~11月》募集 定員になり次第締切

応募者殺到の場合は抽選  
日本美術家連盟主催(企画:技法材料研究委員会)\*小林裕児講師による「蜜蝋画制作会」は12月開催へ変更になりました。次号にて募集します。

## 10月11日(金): 講義・実習 水で溶ける油絵・油で溶けるテンペラ 三浦 明範

定員 20名 参加費: 会員 3,000円・一般 5,000円  
場所: 美術家連盟画廊 時間: 13:30▶16:30(予定)



「水と油」は反発し合って仲が悪いことの喩えであるが、実は簡単に混じり合う。絵画技法史上でも、テンペラから油絵具への過渡期には、油脂分を加えたテンペラや、水性媒剤を加えた油絵具は使用されていた。今日では、既存の絵具に簡単な処理をすることで、テンペラのように描ける油絵具、油絵具のように描けるテンペラに変化させることができる。水性と油性の長所だけを生かした、これまでにない表現を可能にする絵具を作ってみる。

《三浦 明範》

## 11月15日(金): 実習(蠟型) 12月13日(金): 実習(鑄造) 蠟による直接的表現

宇野 務 (協力: 櫻井美術鑄造)

定員 8名 参加費: 会員 15,500円・一般 19,000円  
\*原則 2日間参加可能な方のみご応募下さい。

1日目: 場所: 美術家連盟画廊 時間: 10:00▶17:00(予定)  
2日目: 場所: 櫻井美術鑄造 時間: 9:00▶16:00(予定)



太古の昔から人間は金、銀、銅を扱ってきました、中でも青銅を使ってギリシャ、ローマの時代から沢山のブロンズ像が制作されてきました。中国、韓国などにも沢山の青銅品があります。彫刻の表現として、一般に最もよく知られているブロンズ像。しかし実際に作家が作った作品は、どのような課程を経て、あの青銅の像になるのでしょうか。本講座は彫刻家の技法を通して作家たちがどのようにブロンズと取り組んでいるのかをイタリア式蠟型鑄造技法を中心に紹介致します。また実際に蠟を用いて小品の制作を行い、鑄造所で鑄物にします。ふるってご参加ください。《宇野 務》

## 9月9日(月): 講義 画筆・刷毛の制作—特性を知る

阿部 信治(清晨堂)・滝沢 具幸

定員 20名 参加費: 会員 3,000円・一般 5,000円  
場所: 美術家連盟画廊 時間: 13:00▶17:00(予定)



いつも作家の手の延長として身近に置いてある筆や刷毛。単純な道具のように見えますが、その中には先人たちの工夫と知恵が詰まっています。この講座では、筆の歴史と変遷、原材料や製造過程を平易に解説し、また最終工程を実体験していただく事によって、筆に対する理解を深め、同時に筆の手入れの仕方なども体得していただけます。  
《阿部 信治》

## 11月11日(月): 講義 箔 (定着と表現—技法例) 遠藤 典男・滝沢 具幸

定員 20名 参加費: 会員 500円・一般 1,000円  
場所: 美術家連盟画廊 時間: 13:00▶17:00(予定)



古来より絵画・工芸などに使われ、人々を魅了しつづけてきた金銀箔。種類も表現方法も増えた今日においても、表現材料としての箔は他のものに代えがたい特別の効果をもたらしますが、性質や扱い方等を知らないと、思ったような結果は得られません。今回は表現技法として活用できるように、箔の基本として、素材(金・銀・プラチナ等)の違いやミクロン単位の薄さの箔をどう扱い、どのように定着させるのか、等を学びます。  
《遠藤 典男》

### 講座 申込方法: 応募者殺到の場合は抽選

電話(03-3542-2581)・FAX(03-3545-8429)・E-mail(jaa-support@jaa-iaa.or.jp)いずれかの方法により、①名前(フリガナ)②郵便番号・住所③電話番号④会員(会員番号)・非会員の別、⑤どの講座にお申込みか明記して、事務局までお申込みください(複数応募可)。定員になり次第締切りますが、応募者殺到の場合は、抽選にて参加者を決めさせていただきます。

■ 問合せ: ☎03-3542-2581 (平日10:00~17:00)  
※通知は、当選の方のみ郵送します。